

堀田ハガネ

超硬丸鋸切断機を増設

高速化、歩留まりも向上

特殊鋼流通の堀田ハガネ（本社・堺市西区、社長・堀田靖氏）は、切断加工の増加に対応するため超硬丸鋸切断機を1基増設した。新設機は加工スピードが高速化しているとともに素材の歩留まりも向上している。総投資額は1200万円。そのうち800万円は補助金（中小企業・小規模事業者ものづくり革新事業）を活用している。

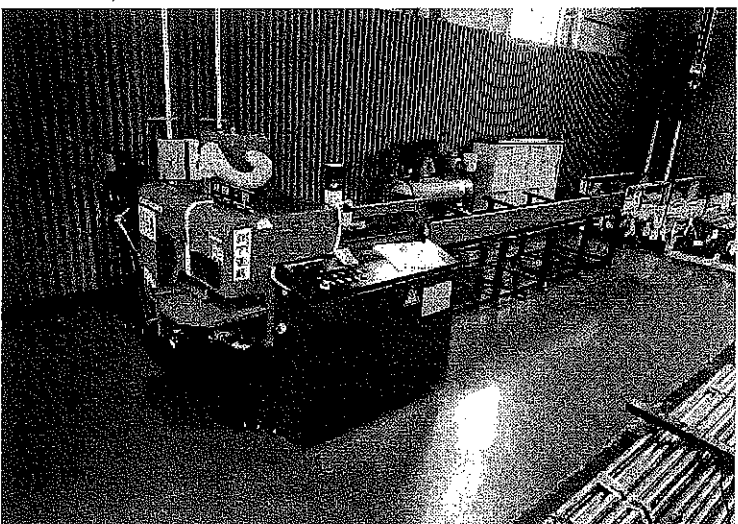
同社は、ニッケルクロムモリブデン鋼やニッケルクロム鋼など含ニッケル鋼の在庫販売に特徴を持つ。切断機は本社サービスセンタ

加。さらに今後、鉄道

車両部品向けの需要増が見込めることから超硬丸鋸切断機を1基増設し、切断能力を強化した。

今回導入したのは、アマダ製のCM75C

。切断最大径は丸棒で76・2ミ。切断加工の部分がパネルでおおわれているため切断時に粉塵が外部に漏れることがなく、切り粉も自動で回収される。新設機は昨年10月初旬に設置し、同月下旬から本格稼働に入っている。



高速で歩留まりも向上した新設機